平成23年度事務事業評価シート

平成 23 年 6 月 1 日 作成

事務事業 No./名 称	■サービス部門 □支 援 部 門 健福-04	社会を明るくする運動事業	
主管課	福祉政策課	関連課	
分野名	健康福祉		
目標（目標値）	社会を明るくする運動が推進されるよう支援していく。		

人口等のデータ	データ区分	22年度	21年度	20年度	備 考
	人 口	177,161人	176,669人	176,484人	・各年4月1日（住民基本台帳）
	世 帯 数	78,812世帯	78,131世帯	77,430世帯	
	事業の対象者数				
運営資源状 況	決算値（千円）	298千円	313千円	307千円	
	（国 ・ 県）	0千円	0千円	0千円	
	（負担金等）	0千円	0千円	0千円	
	（一般財源）	298千円	313千円	307千円	
	人員配置数	0.7人	0.7人	0.5人	
	人 件 費（千円）	6,281千円	6,477千円	4,597千円	
	協 働 の パートナー	保護司会	保護司会	無	
事務事業運営経費	総事業費（千円）	6,579千円	6,790千円	4,904千円	
	市民1人当りの経費（円）	37円	38円	28円	
	対象者1人当りの経費（円）				

ベンチマーク（県内外自治体や民間団体との比較値）	団体名									

指 標	評価	年度	21年度	22年度	23年度	24年度	最終年度（ 年度）
		目標値					
◎目標を達成 ○目標に向かって前進 △横ばい ×後退		実績値					

中事業に含まれる小事業の評価（⇒個別事業の概要は裏面）

評価の視点				
	①効率性	事業費や人件費に削減余地はないか。	②妥当性	事業の目的と政策・施策体系の目標とが整合しているか。法的な根拠や公的関与の妥当性はあるか。
	③有効性	事業の成果が得られているか。事業を休止・廃止した場合影響があるか。	④公平性	受益機会が偏っていないか。受益者負担は公平・公正か。

小事業名	H22決算値	評価 適切＝○ 、要改善＝△（評価の視点を参照）				⇒ 方向性 A:充実・拡大 B:現状継続 C:改善・見直し D:統合縮小 E:廃止・休止
社会を明るくする運動事業	298千円	①効率性 ○	②妥当性 ○	③有効性 ○	④公平性 ○	⇒ □A ■B □C □D □E
	事業の概要	ポスターコンテストや講演会などを保護司とともに行う。 更正保護の仕事に従事している保護司会に対し、補助金を交付する。				
		①効率性	②妥当性	③有効性	④公平性	⇒ □A □B □C □D □E
	事業の概要					
		①効率性	②妥当性	③有効性	④公平性	⇒ □A □B □C □D □E
	事業の概要					
		①効率性	②妥当性	③有効性	④公平性	⇒ □A □B □C □D □E
	事業の概要					
		①効率性	②妥当性	③有効性	④公平性	⇒ □A □B □C □D □E
	事業の概要					
		①効率性	②妥当性	③有効性	④公平性	⇒ □A □B □C □D □E
	事業の概要					

中事業の評価結果

事業診断（課長評価）

H22年度の課題	運動そのものへの関心を一部の人達のものだけにせず、広く一般の人にも活動に関心を持ってもらえるようにすること。
課題解決のための取組	「講演と映画のつどい」のイベント開催時には、コーラスの時間を設け、更なる集客のアップに力を入れた。また、保護司会と連携した街頭啓発活動には市長も参加し、一般市民の関心を向上させることに努めた。
未解決の課題	社会を明るくする運動が一部の人たちだけでなく、広く一般の人たちにの関心を高めることが課題である。
今後の方針	ポスターコンテストを行っていく際には、市内の各中学校を回ってポスター募集の広報活動を行っていく。「講演と映画のつどい」のイベントは、一般の人たちが参加しやすいような講演の内容にするなど、保護司会と協議しながら進めていく。

今後の方向性	A:充実・拡大 B:現状継続 C:改善・見直し D:統合縮小 E:廃止・休止 ⇒	B	※ □事業完了	課長名	福祉政策課長 鈴木 善博

個別事業の概要

小事業名		ザイムスコード	個別事業名	22年度予算	22年度決算値	個別事業の評価結果
社会を明るくする運動事業	主な個別事業	9	ポスターコンテスト消耗品費	11	11	■適切　□見直し余地あり
		9	保護司会補助金	287	287	■適切　□見直し余地あり
	主な個別事業					□適切　□見直し余地あり
	主な個別事業					□適切　□見直し余地あり
	主な個別事業					□適切　□見直し余地あり
	主な個別事業					□適切　□見直し余地あり
	主な個別事業					□適切　□見直し余地あり